

静岡県漁業協同組合連合会

1011 静岡市追手町 9-18
14.9.20 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 最近の石油情勢について

国際石油情勢：原油市況において、4月初旬、中東情勢が緊迫したことにより、昨年9月に発生した米国同時多発テロ事件以来の高値である27ドル/バーレルまで高騰した。

更に、ベネズエラの労働争議により同国からの石油輸出が一時停止したため、同国最大のアマユアイ精油所は生産を50%に削減した。また、イラクがイスラエルのパレスチナ自治区への侵攻に抗議して、4月8日から30日間原油輸出を停止すると発表し、これにより需給が逼迫するとの観測が広がり、5月初旬には一時29ドル/バーレル台まで上昇した。

しかし、その後イラクの原油輸出停止解除、ロシア、ノルウエーの協調減産離脱報道により軟化を始め、6月初旬には24ドル/バーレル台まで下落した。6月26日、OPEC総会において減産継続が合意されたことから再度上昇し始め、7月初旬26ドル/バーレル台で推移した。更に、8月に入り、米国の戦略備蓄原油積み上げの動きからイラク攻撃の可能性がさらに高まるとともに、米国の原油在庫の大幅な減少等により、8月中旬には昨年2月以来約1年半ぶりに30ドル/バーレル台まで高騰し、9月初旬29ドル/バーレル前後と依然高値で推移している。

石油製品市況はシンガポール・ガスオイル市況において、3月初旬には22ドル/バーレル台で推移していたが、クウェートの精油所爆発事故の影響と原油の高騰に連動しながら上昇し始め、3月中旬には25ドル/バーレル台まで上昇した。

4月には、米国の景気回復による需要の拡大、中東情勢の緊迫による原油の急騰に連動しさらに上昇、5月中旬には28ドル/バーレル台まで高騰した。

しかし、その後原油の供給過剰感により原油市況が軟化、これに連動し6月中旬には一時26ドル/バーレル台まで下落したが、6月26日のOPEC総会において減産継続が合意されたことから原油が上昇し始め、これにより製品市況も再度上昇し始め、7月初旬27ドル/バーレル台で推移した。

8月に入り、イラク攻撃懸念等による原油市況の高騰に連動し徐々に上昇し、9月初旬現在30ドル/バーレル台と堅調に推移している。

国内石油情勢：石油製品の国内在庫数量は平成14年7月末速報において、燃料油合計12,933千KLであり、前年同月比101.8%であった。A重油においては1,324千KLであり、前年同月比99.6%であった。7月の原油輸入量は前年対比3.7%の減少となり、昨年10月以降原油輸入量の削減・減産体制の維持により原油処理量も10ヶ月連続で前年を下回っている。また、7月～9月においても、電力向け需要を中心にC重油の大幅な需要減退など引き

続き燃料油需要が低迷すると予想されていることから、これら需要の減少に対応するべく、前年比10%程度の大幅な減産を実施すると発表した。これにより、今後需要が引き締まる可能性があり動向に注意する必要がある。(資料提供 J F 全漁連)

2. 平成14年度漁協組合長会議・研修会開催のお知らせ

本会では、来る9月26日(木)～27日(金)の両日、伊豆長岡町・三溪園において、平成14年度漁協組合長会議・研修会を開催します。

この会議は、過般実施の漁協巡回並びに各地区より提起された地域の問題点や漁業・漁協が当面する課題等を討議し、その対策の樹立を図るとともに、研修会を通じて業界を取巻く環境変化に対する洞察力を養い、漁協運営と協同組合運動リーダーとして研鑽し、もって漁協系統の健全な発展に資することを目的に開催するもので、本年度の研修内容等は次のとおりです。

第1日目 講演：「JFグループの事業・組織・経営改革に向けた運動方針について」(全漁連常務理事 宮原邦之氏) 「油濁事故の法的初動体制及びナホトカ号事故の実状」(全漁連顧問弁護士 成田健治氏) 第2日目：前年度組合長会議等実行報告 組合長会議：課題等の検討・討議・採択 講演：「ぎょさい制度の特性について」(全国漁済連常務理事 佐藤正敏氏)

3. サンマ漁模様について

今年のサンマ漁は、8月20日に棒受大型漁船が解禁となったが、台風13号の余波で時化たため、出漁を見合わせる船が多く低調な滑り出しとなりました。

海況は、親潮と黒潮の勢力がともに強いことから表面水温と50メートル深水温の差が大きく推移しており、中層でまとまっていた魚群が表面に浮上する際には分散してしまい漁の薄い状態が多くなっていました。このため、9月5日現在漁場はロシア200海里水域周辺で、漁の薄さから同水域内での操業を切り上げを決める船も多くなっています。

9月5日までの全さんま所属船の水揚量は、約3万2,000トン(前年同月5万6,000トン)に比べ43%減という状況となっています。

しかし、魚価は漁獲量に反比例して平均価格は8割高(10キロ当たり3,200円、前年1,800円)となったため総金額では102億円に達し、前年の99億円を上回っており、9月5日産地浜値も根室で高値がキロ290円となっています。

今後の漁見通しについては、今月中旬以降に表面水温が低下するにつれて魚群もまとまり出し、漁場が三陸沖に南下するのに伴い好漁場が形成され、水揚ペース急回復との見方が大勢で最終的に前年の26万6,000トンを上回るのではないかと観測があるほどです。

4. 諸会議・日程(9月24日(火)～10月7日(月))

- 既報分省略 -

10月3日(木) 県養鰻協会 = 役員・幹事・企画委員合同会議 (県水産会館)

10月4日(金) 県漁連 = 相良地区合併推進協議会 (相良町役場)